平成３０年度

新紺屋小学校だより

甲府市立新紺屋小学校
校長室：大塚 克哉
〒400-0016
甲府市武田 1-3-34
TEL:252-2578
http://www.shinkonya-e.kofu-ymn.ed.jp/

本校の学力学習状況調査の結果をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月１７日（火）に全国の小中学校で実施されました。本校でも当日，６年生２５名が参加しました。この調査は，本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより，今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることを目的としています。

今年度の結果について，県教委及び市教委による説明会をもとに，分析を行いました。その結果の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。なお，調査に参加した６年生一人ひとりには，個別懇談等を利用して，個人票をもとに具体的な課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

〈調査内容〉

○　教科に関する調査（国語・算数・理科）＊理科については，Ａ・Ｂの区別はありません。
　◇主として「知識」に関する問題（A問題）
　　・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
　　・実生活に不可欠であり，常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
　◇主として「活用」に関する問題（B問題）
○　生活習慣や意識等に関する調査

〈分析結果の概要〉

１　本校の状況（全国との比較）

平均正答率で見た本校の結果は，国語A・B，算数A・B，理科ともに全国平均を上回っています。また，国語・算数とも「知識」に関するA問題より，「活用」に関するB問題の方に苦手意識が見られました。これは全国と同じ傾向です。

２　教科にかかわる課題とその改善に向けての取り組み（特に課題となる点及び改善に向けての取り組みを抜粋して掲載）

【　国　語　】

①　本校の課題

正答率は概ね全国を上回っています。ただ，「知識」に関するA問題では「登場人物の心情について，情景描写を基に捉える」「文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書く」などにおいて，正答率が低い設問も見られました。「活用」に関するB問題では，特に「話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」に課題が見られました。

②　改善に向けての取り組み

○「登場人物の心情について，情景描写を基に捉える」について
・情景描写の中にも，人物の心情の変容などが暗示されていることを教えます。そのために，情景描写を比較し，中心人物の心情の変容と関連付けることで，それがどのようなことを意味しているのかを考えさせたり，心情の読み取りでは，叙述を根拠に挙げさせることで，単なる想像や印象で物語を読み進めないようにさせたりしたいと思います。また，場面分けを行い，場面ごとの出来事や登場人物の思いをまとめさせることで，中心人物の心情を整理させるように指導をします。

○「文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書く」について
・普段の学習の中で，「読み」を大切にし，いつも「主語」や「述語」を意識させるようにします。そのために，教科書やプリントなどに書かれている文の「主語」と「述語」に線を付けるようにさせたり，述語から主語にさかのぼるような習慣づけも行ったりします。また，長文においても，機会あるごとに「主語」と「述語」を意識した指導を継続的に行えるようにします。
・「作文」や「感想文」などを書く機会を増やすようにします。一文が長いと文の主張がぼやけるので，一文を短く書くなどの工夫を行ったり，書いた文を読み返す習慣をつけ，無くても意味が伝わるような言葉があったら，省くような工夫を行わせたりします。また，接続語や段落相互の関係についても，意識するような習慣もつけさせていきたいと考えます。

○「話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」について
・立場を決めて話し合う場面を，多く設定するように工夫します。計画的に話し合うために，司会者，提案者，参加者それぞれの役割を捉え，話し合いの目的に応じた進行や互いの発言の意図を理解することの大切さに気付けるようにさせたいと考えます。司会者，提案者，参加者以外に解説係を設け，解説係は話し合いに参加せずに，他の発言について気付いたことを全体に提示させたり，解説係の気付きを生かして話し合いを振り返り，出されたよい点や改善点，それぞれの役割のポイントを明らかにしたりできるように取り組ませていきます。また，話し手の意図することを必要に応じてメモするようにさせていくことも大切だと考えます。

【　算　数　】

①　本校の課題

正答率は概ね全国を上回っています。ただ，一部，正答率が低い設問も見られました。特に「活用」に関するB問題のうち，「数量関係」領域が全国と同様に苦手意識が見られます。「規則性を解釈し，それを基に条件に合うものを判断すること」「メモの情報とグラフを関連付け，総数や変化に着目していることを解釈し，それを記述できること」などに課題が見られています。

② 改善に向けての取り組み

○「規則性を解釈し，それを基に条件に合うものを判断すること」について

・事象を観察して，規則性を見いだし，条件に合う事柄について適切に判断できるように指導します。日常生活の問題の解決のために，事象から規則性を見いだし，変化や対応の関係を基に，素早く処理し，条件に合う事柄について適切に判断することができるようにさせたいと考えます。また，普段の学習の中で，絵や図などを用いて，どのような規則性があるのかを調べ，考える場をもつようにします。

○「メモの情報とグラフを関連付け，総数や変化に着目していることを解釈し，それを記述できること」について

・グラフの特徴を複数の観点で捉えさせ，情報を読み取ることができるように指導します。読み取った情報を，総数や変化といった観点で分類し，それぞれの情報について意見を出し合う活動を取り入れるようにします。その際，グラフのどの部分に着目して情報を読み取ったのかを説明し合うことで，他者が読み取った情報とグラフを関連付けて解釈することができるように指導します。

○「理由についてまとめる際，示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる」ことについて

・日常生活の問題の解決のために，複数の情報を解釈し関連付けて考察し，判断の理由について根拠を明確にして説明できるようにします。また，理由を，筋道を立てて考え，根拠を明確にして説明する活動を意識的に仕組むようにします。

【 理 科 】

① 本校の課題

正答率は概ね全国を上回っています。ただ，中には正答率が60%を切る設問や県平均を下回る問題もあり，課題もあります。無解答率は０％で，問題へ意欲的に取り組んでいた結果がうかがえました。「実験結果を基に自分の考えを改善する」「学習の見通しをもって学習課題やめあてを解決できるようにする」ことなどに課題が見られました。

② 改善に向けての取り組み

○「実験結果を基に自分の考えを改善する」ことについて

・自分の予想と実験結果を照らし合わせ，より妥当な考えに改善できるように指導します。実験前の自分の予想と実験で得られた結果を照らし合わせ，自分の予想が確認されたのかを検討する場をもつようにします。自分の予想が実験結果と一致しない場合には，より妥当な考えに改善するために，予想を振り返り，見直し，再検討したり，他者の予想を振り返ったりすることで，自らの考えを修正し，結果から適切に考察できるようにしていけるように指導します。

・複数の実験結果を基に考え，より妥当な考えをつくりだす話合いの場を設定するようにします。より妥当な考えに改善するために，他者の考えを捉え，自己の考えを広げ深めることが大切になるので，自分の判断をグループ内で話合って吟味したり，他のグループと実験結果や考察した内容を話し合って自分の判断を再検討し，学級全体で確認するといった段階的な話し合いの場も意識的に設定していけるようにします。

○「学習の見通しをもって学習課題やめあてを解決できるようにする」ことについて

・一人一人が見通しをもって学習にのぞめるように工夫します。単元のはじめや学習のはじめに，児童に学習の見通しをもたせる場を設定します。また「見通し」と「振り返り」を常に意識して，指導にあたることができるようにします。

３ 児童質問紙調査の本校の結果について・・・特によかった点及び改善が必要と思われる点を抜粋して掲載いたします。

（1）児童質問紙調査用紙から見られる本校の傾向

〔生活習慣，自尊感情，規範意識，社会に対する関心について〕

○「朝食を毎日食べていますか」については「している」「どちらかといえば，している」で 100%となっており，望ましい結果となっています。今後も継続していただけるようにお願いいたします。

□「毎日，同じぐらいの時刻に起きていますか」については，「している」「どちらかといえばしている」を合わせるとやや全国・県を上回る結果となっています。「毎日，同じぐらいの時刻に寝ていますか」については「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合が「している」と回答した児童の割合を上回っており，やや不規則となる傾向があることがうかがえます。

○「自分には，よいところがあると思いますか」については，若干ではありますが全国・県を上回っています。

△「将来の夢や目標を持っていますか」については，「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童の割合が高くなっており，将来の夢や目標が未だ定まっていない児童がいることがうかがえます。

○「学校のきまりを守っていますか」については，「どちらかといえば，当てはまる」と回答した児童が「当てはまる」と回答した児童の割合より高くなっていますが，両者を合わせると全国・県を上回る結果となっています。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」では，全国・県を上回っています。

○新聞やニュースを見る児童の割合は全国・県と比べて高い傾向が見られています。

〔学習に対する意識，放課後・休日の学習状況について〕

△平日の学校の授業時間以外の学習時間は30 分以上２時間未満の割合が高くなっています。

「2 時間以上」や「3 時間以上」と回答している児童もありますが，県・全国に比べ割合は低くなっています。

△多くの児童が１日１０分以上読書していると回答していますが，「10 分より少ない」「全くしない」と回答している児童が 40%おり，家庭での読書についてはより取り組めるような環境が必要だと考えます。

○「家の人と学校の出来事について話をしますか」においては，ほとんどの児童が「している」「どちらかといえばしている」と回答しています。

〔今回の調査における態度・意欲〕

△国語Ｂ・算数Ｂにおいて、調査問題の解答時間が足りないと答えている児童が多くいました。A問題の「主として知識」を問う問題に比べ，Ｂ問題の「主として活用」を問われる問題に難しさや苦手意識をもっている児童が多いことが本年度も見受けられました。学習や生活の中で得た「知識」をどう「活用」していくかが今後の課題となってきます。